

令和5年度「学校における男女共同参画研修」 実施報告について

国立女性教育会館

国立女性教育会館（NWECC）では、7月25日（火）～9月25日（月）に教育長・教育委員、教育委員会及び教育センター等の管理職・管理主事・指導主事・職員、初等中等教育学校・特別支援学校の管理職・教職員を対象に「学校における男女共同参画研修」を実施しました。

本研修は、初等中等教育における女性の意思決定過程への参画を促進するための社会的気運の醸成を図ることを趣旨とし、学校における男女共同参画に関わる現状・課題を把握し、女性の管理職登用促進に向け、組織の実情に合わせた課題解決の方策を探ることを目的としています。

今年度は定員を大幅に上回る申込みがあり、全国から約430名の参加を得ました。

研修の期間中、オンデマンド配信による講義や座談会等のプログラムを提供し、8月18日（金）には、希望者のみのライブ配信プログラムにより、管理職を増やすために必要な支援等について、「働き方改革と慣習の見直し」「ワークライフ・バランスと女性のキャリア形成支援」「組織風土と人材の育成」のテーマで参加者同士のディスカッションを実施しました。



座談会「女性の管理職登用の促進をめぐる課題と今後の方策」

（左上）田村 砂弥香 千代田区立麹町小学校校長

（右上）吉田 直史 山形県教育局教育次長

（左下）コーディネーター：百合田 真樹人 独立行政法人教職員支援機構教授

（右下）国立女性教育会館事業課職員：石川 麻裕子 専門職員

学校教育においては、女性の管理職割合は増えているものの十分ではなく、地域や校種によって差が見られます。本研修では、女性管理職登用の促進の必要性について専門家が解説し、男女共同参画の基本理念やその実現に向け

た学校教育や教職員の役割、学校現場等における女性のキャリア選択の現状やその背景に根強く残る固定的な性別役割分担意識といった課題についても言及しました。また、文部科学省や教育委員会からは、学校における人材の育成やキャリア形成についての情報提供があり、今後の学校現場での取組に向けて必要な視点や具体的な実践例も示され、課題解決に向けたヒントを得ることができました。

研修全体に対する参加者の満足度も大変高く、「学校文化や働き方改革の推進、女性教員の意識改革、モチベーションアップを図るなど、さらなる取り組みを進めていきたい。」「多様な視点からのアプローチが今後必要だ。」「どのように格差が存在しているのかが確認でき、実践している取り組みの内容や考えを知り、考えるヒントをいただいた。」「女性の管理職登用に焦点をあてるということは社会全体の働きやすさにつながることを感じた。」等の感想が寄せられました。